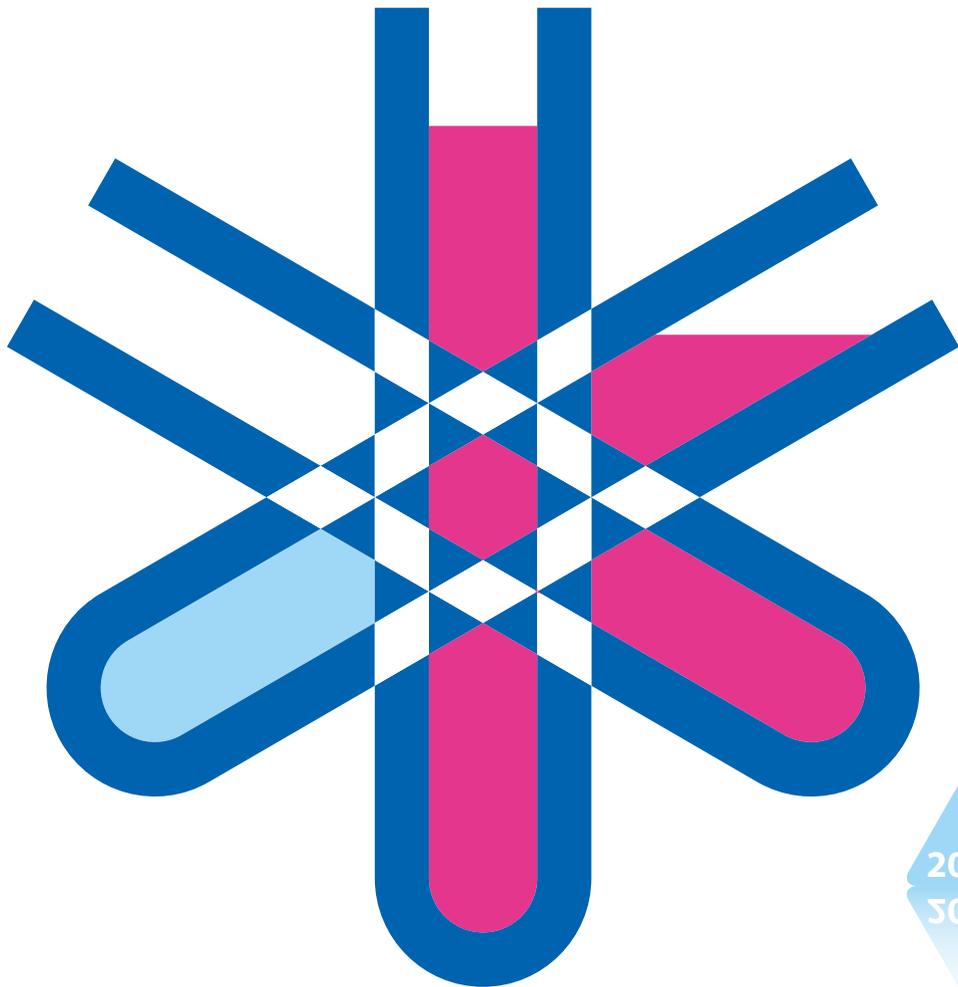


横查情報月報



2023
5053

3

3

横浜市衛生研究所

令和5年3月号 目次

【検査結果】

アレルギー物質を含む食品検査（令和4年度）	1
-----------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和5年2月）	3
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告*（令和5年2月）	5
-------------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

アレルギー物質を含む食品検査（令和4年度）

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、症例数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品にこれら特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーのある人がその食品を知らずに食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難等のアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品や特定原材料除去食の検査を行っています。

令和4年度に、健康福祉局専門監視班がインターネット買取及び市内の食品製造施設から収去した食品54検体並びに各区福祉保健センターが市内の保育所及び小学校から収去した特定原材料除去食75検体、合計129検体について、卵、乳、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

インターネット買取及び市内の食品製造施設から収去した原材料に卵を使用していないとされる食品18検体(弁当・そうざい類6検体、菓子類12検体)並びに市内の保育所及び小学校から収去した卵除去食等30検体(弁当・そうざい類29検体、菓子類1検体)、合計48検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類(ポテトサラダ、とんかつ、かきたま汁等)	35	0	-	-
菓子類(クッキー、ケーキ、シュークリーム等)	13	0	-	-

2 乳の検査

インターネット買取及び市内の食品製造施設から収去した原材料に乳を使用していないとされる食品18検体(弁当・そうざい類6検体、菓子類12検体)並びに市内の保育所及び小学校から収去した乳除去食等28検体(弁当・そうざい類23検体、菓子類5検体)、合計46検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類(グラタン、コロッケ、クリームシチュー等)	29	0	-	-
菓子類(チーズまんじゅう、ケーキ、シュークリーム等)	17	0	-	-

3 小麦の検査

インターネット買取及び市内の食品製造施設から収去した原材料に小麦を使用していないとされる食品18検体(弁当・そうざい類6検体、菓子類12検体)並びに市内の保育所及び小学校から収去した小麦除去食等17検体(弁当・そうざい類16検体、菓子類1検体)、合計35検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

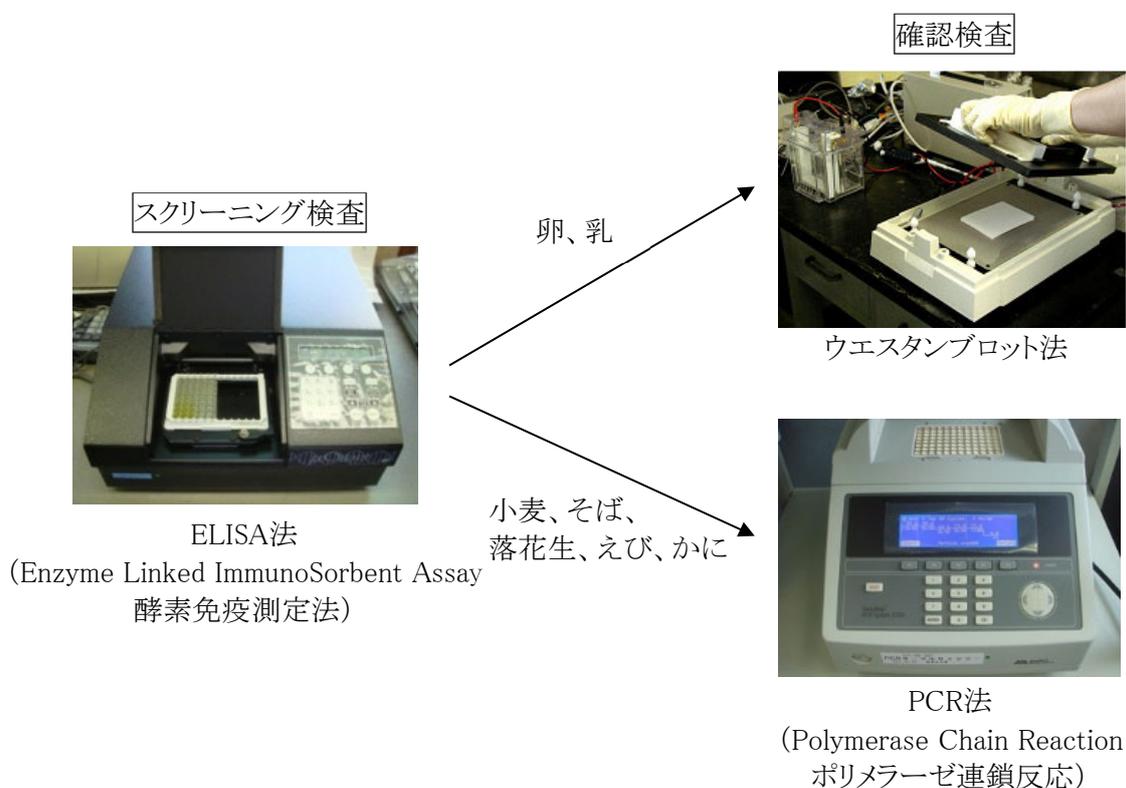
検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類(コロッケ、チリコンカン、カレー等)	22	0	-	-
菓子類(クッキー、ケーキ、シュークリーム等)	13	0	-	-

「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出します。陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング検査で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。

確認検査にはウエスタンブロット法とPCR法の2種類があります。「卵、乳」については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウエスタンブロット法を用い、「小麦、そば、落花生、えび、かに」については、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

衛生研究所WEBページ情報（令和5年2月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和5年2月のアクセス件数、アクセス順位、追加・更新記事について報告します。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和5年2月の総アクセス数は、176,823件でした。前年同月に比べ4.4%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*85.2%、保健情報6.2%、検査情報月報2.3%、薬事2.2%、食品衛生1.8%、生活環境衛生0.8%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

表1 令和5年2月 アクセス順位

順位	前月比	タイトル	件数
1	→	EBウイルスと伝染性単核症について	15,446
2	→	トキソプラズマ症について	9,590
3	↑	サイトメガロウイルス感染症について	7,438
4	↑	B群レンサ球菌 (GBS) 感染症について	7,189
5	→	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	6,741
6	↓	横浜市感染症情報センタートップページ	6,355
7	↑↑	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	4,967
8	→	淋菌感染症(淋病)について	4,788
9	→	粉ミルク(乳児用調整粉乳)を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか?	4,148
10	↑↑	インフルエンザ流行情報(2022/2023)	3,543

(政策局広報課提供のデータを基に集計)

「EBウイルスと伝染性単核症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/ebv1.html>

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「サイトメガロウイルス感染症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/sa/cytomegalol.html>

2 追加・更新記事

令和5年2月に追加・更新した主な記事は、7件でした(表2)。

表2 令和5年2月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
2月1日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新
2月2日	横浜市インフルエンザ流行情報5号	掲載
2月9日	横浜市インフルエンザ流行情報6号	掲載
2月16日	横浜市インフルエンザ流行情報7号	掲載
2月17日	感染症に気をつけよう！2月号	掲載
2月20日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新
2月24日	横浜市インフルエンザ流行情報8号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年2月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザが増加し、流行注意報が発令されました。A型が多く検出されています。
- 梅毒は20歳代～30歳代の若い世代を中心に、幅広い年齢層で発生しています。妊婦の報告もみられます。
- 感染性胃腸炎の報告が多く、集団感染などもみられます。
- 新型コロナウイルス感染症は減少傾向が続いていますが、引き続き今後の動向に注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

<2月期に報告された全数把握疾患>

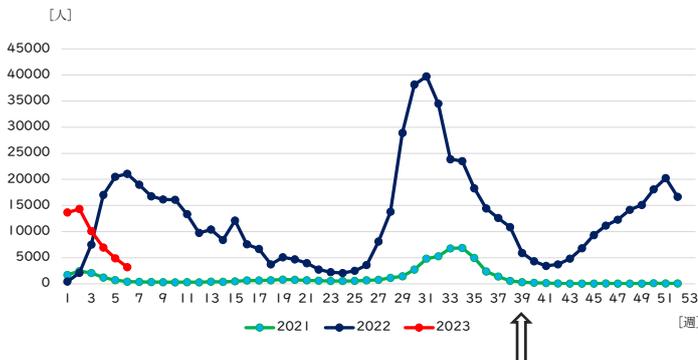
腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	6件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	18件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	百日咳	1件

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～20歳代で、血清群O26が1件、O157が1件です。経口感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件ありました。
- 2 **E型肝炎**:30歳代～60歳代で、経口感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 3 **レジオネラ症**:60歳代～90歳代で、塵埃感染と推定される報告が2件、水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 4 **アメーバ赤痢**:60歳代で、経口感染と推定されています。
- 5 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:20歳代～80歳代で、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:80歳代で、血清群A群が1件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～60歳代で、性的接触(異性間1件、同性間1件)と推定される報告が2件ありました。
- 8 **水痘(入院例に限る)**:50歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 9 **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、晩期顕症梅毒2件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間12件、同性間2件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 10 **百日咳**:40歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。

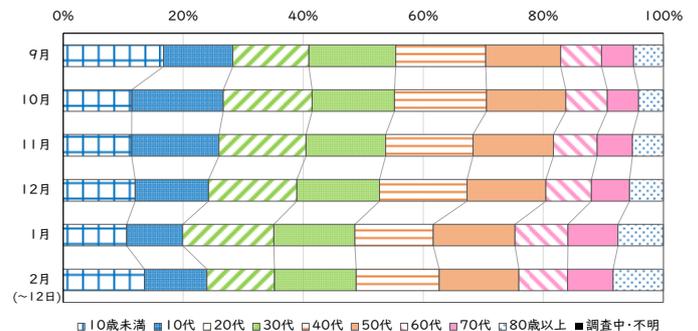
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

2023年第4週～第6週に横浜市から報道発表がありました症例は15,053件でした。

◆ 横浜市新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移



2 年齢層別患者割合

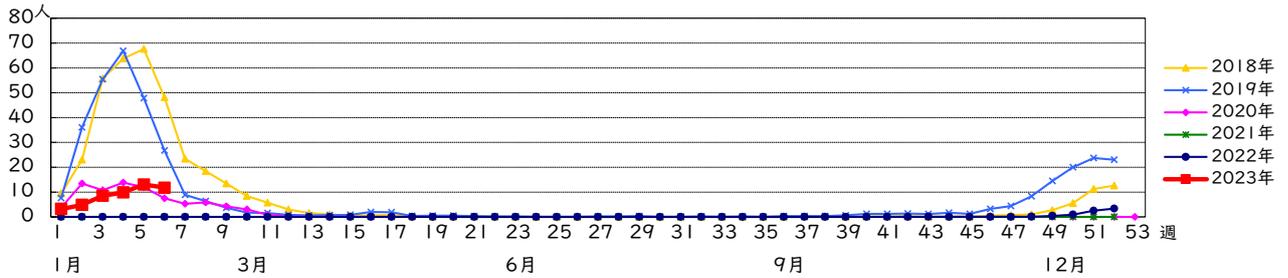
※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています(白抜き矢印)

報告週対応表	
第4週	1月23日～1月29日
第5週	1月30日～2月5日
第6週	2月6日～2月12日

◇ 定点把握の対象

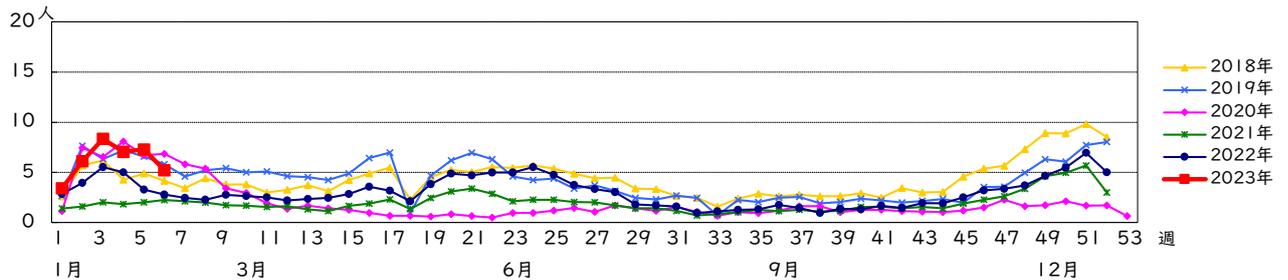
1 インフルエンザ:

2022年第46週以降増加しており、第51週に流行開始の目安となる1.00を上回り、インフルエンザ流行期に入りました。2023年第5週には13.07となり、流行注意報が発令されています。第6週は11.81です。第6週までの市内迅速キットの結果は、累計でA型99.4%、B型0.5%、A・B型ともに陽性0.1%と、A型が多く検出されています。(詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報7号をご覧ください)



2 感染性胃腸炎:

2022年第39週以降増加に転じ、2023年第4週7.06、第5週7.29、第6週5.22と推移しています。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:11件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:4件	淋菌感染症	男性:14件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	18件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月期(2023年第4週～第7週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点35件、内科定点7件及び基幹定点1件でした。

アデノウイルス2型分離1株並びに各種ウイルス遺伝子25件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2023年第4週～第7週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ A	胃 腸 炎
アデノウイルス2型	1 -			
ボカウイルス		- 1		
ヒトコロナウイルス HKU-1	- 2			
ヒトコロナウイルス OC43	- 3			- 1
ヒトコロナウイルス NL63	- 2			
インフルエンザウイルス AH1型pdm09			- 2	
インフルエンザウイルス AH3型			- 10	
パラインフルエンザウイルス1型	- 1	- 1		
パラインフルエンザウイルス4型		- 1		
RSウイルス		- 1		
合計	1 8	- 4	- 12	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月期(2023年第4週～第6週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、サルモネラ属菌1件でした。非定点からの依頼は、非結核性抗酸菌症(NTM)1件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌2件でした。

「分離同定」の検査依頼は、保健所からレジオネラ属菌4件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2023年第4週～第6週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	非定点	サルモネラ属菌	1 <i>Salmonella</i> Java (1)	
	非定点	非結核性抗酸菌(NTM)	1 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1)	
保健所		腸管出血性大腸菌	2 O26 : H11 VT2 (2)	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	2 A群溶血性レンサ球菌 TUT (1)、G群溶血性レンサ球菌 (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1(2)、培養陰性(2)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	A群溶血性レンサ球菌 T9 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】